



愛隣幼稚園.....

園だより

.....19.5月

小さな出会いから

新しい1年が始まって3週間、明日からは空前のGW10連休となります。幼稚園が始まって19日（保育日数は15日）ですが、ここから10日もお休みです。多分、きっと、恐らく・・・5月7日には多くのたんぼ組の子どもたちが【振り出しに戻る】で、幼稚園にやってくることでしょ。今年は覚悟しなければと思っています。ま、そんなことを心配するよりも、明日からの10連休はせっかくですから、楽しんでほしいなあとと思います。

春はいい季節です。木々は自然の創り出す『緑』の多様さを、私たちにを見せてくれます。生き物は一斉に動き始めて『命』が目覚めたことに気付かせてくれます。これらを意識せずとも私たちは体のどこかで感じています。きっと私たちもこの地球上の生き物の一部だから、春の訪れに自然と心が躍るのでしょう。是非、野外に出かけて、数えきれない緑色を子どもたちと見つけ、動き始めた命に出会ってほしいと思います。

先週、つばさ組の虫好きたちが園庭で珍しいカナブンを見つけたと言って興奮していました。「ライオンカナブンだよ！」そう言って指で掴んだ珍虫を見せてくれました。「飼ってみる。」と張り切っていましたが、残念ながら「ライオンカナブン」は彼の棲み処へ帰って行ってしまいました。皆さんは「ライオンカナブン」と聞いてどんなことを思われましたか？私はくえっ、なに？その名前！>聞いた瞬間に、ワクワクしてしまいました。<そんな名前のカナブンがいるのかあ。そう言われてみれば、見たことのない色だったような・・・すごくキラキラしていたような・・・（本音を言えば、どのあたりがライオンなのかは疑問でした。）> “ライオン”なんて名前が小さなカナブンにつくなんて、それだけで心を掴まれてしまいます。（あ、そもそも虫はちょっと、という方には共感してもらえそうもありませんが。）その日から気になっていました。頭から離れませんでした。「ライオンカナブン」気になって仕方がなかったのでググって（Googleで検索すること）しまいました。（さあ、気になるあなたもググってみましょう。ライオンコガネで検索してください。）するとそこには紛れもないライオンの姿をしたコガネムシが現れたのです。うわっ！これか！この姿なら、虫好き男子たちがその名前を言って、目を輝かせていたのも頷けます。でも、私が彼らにみせてもらったカナブンは、それではありませんでした。恐らく彼の本名は「シロテンハナムグリ」日本ではよく見るコガネムシです。虫好き男子たちは嘘をついたのでしょうか？適当に名前を言ったのでしょうか？きっと彼らは図鑑の中で「ライオンカナブン」に出会ったのでしょう。“こんなにいるんだ！” “すごい！” “いつか生きた本物を捕まえてみたい” と思ったに違いありません。その思いはあの日捕まえたキラキラ輝く（それは本当）「シロテンハナムグリ」を「ライオンコガネムシ」と命名して成就したのではないかと、ちょっと大袈裟ですがそんな風に私は考えています。

子どもたちは小さな虫が好きです。視線が地面に近い子どもたちにとって、小さな虫たちは身近な存在です。だから、入園後の心細い気持ちを和ませてくれるいい存在でもあります。泣いていた子どもがダンゴムシをこれでもかというくらい捕まえてきて、大人をぎょっとさせます。捕まえてきてもそのまま放置ですから、かわいそうなことにダンゴムシたちはお亡くなりになってしまいます。残酷です。でも、こんな風にして子どもたちは身近な命に出会っていくのです。小さな命がそこにあること。小さな命には生き続けるための条件があること。小さな命が美しいこと。小さな命が不思議であること。こんな事に出会って子どもたちは命や自然に対する興味を持ち、それが広がっていくのです。小さな点から始まった興味は、やがて子どもの身長が伸び視界が開けていくにつれ大きく広がり、いつか自然の織りなす美しさ不思議さは人には創り出せないものであることに気がきます。人は万能ではないことを知り、いただいた命を生きるということを考える時が訪れるのだと思っています。そんなおっきなお話の始まりが今、ここにあるのです。